



## 第4回理事会

**日時** 平成24年10月6日(土) 16:00~17:30  
**場所** グランドホテルニュー王子 2階「若草」  
**出席者** 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、北野・三戸・深澤・直江・橋本・水谷・伊藤・生駒各常任理事、山光・島田・伊藤・津田・沖・倉増・山下・堀・齋藤各理事、水元・中村・大口監事、塩野議長、本間副議長

(事務局：島影事務局長ほか12名)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 報告事項

### (1) 日医理事会報告(長瀬会長)

協議等に関しては、すでに日医速報で報じられており、そちらを参照願いたい。なお、事前の打合せ会にて、専門医制度における総合医問題について、診療に関連した予期しない死亡の調査機関設立の骨子(日医案)について等の意見交換をした。

### (2) 日医各委員会報告

#### 1) 日医各委員会の諮問事項について

(深澤常任理事)

前回の理事会以降に開催された日医各委員会の諮問事項等につき報告した。

#### 2) 社会保険診療報酬検討委員会〔8月29日(水)〕について(橋本常任理事)

委員長に京都府医師会・安達秀樹副会長、副委員長には社会保険診療報酬支払基金・井原裕宣医科専門役ならびに日本臨床整形外科学会・藤野圭司理事長が選出された。会長諮問は①「平成24年度診療報酬改定の評価」と②「現在の診療報酬における問題点とその対応」で、諮問事項①の議論を進めていく上で、小職は北海道内の現況を踏まえ提言していきたいので、先に各郡市医師会に提出を求めた改定の評価について、再度、意見の提出をお願いした。

### 3) 公衆衛生委員会〔8月30日(木)〕について

(三宅副会長)

委員長に日本総合健診医学会・吉田勝美理事長、副委員長には兵庫県医師会・足立光平副会長が選出された。会長諮問は「医師会活動を通じた国民のための地方保健のあり方」で、フリートーキングにより議論が進められた。

### 4) 医師会共同利用施設検討委員会〔8月31日(金)〕について(伊藤理事)

委員長に静岡県医師会・篠原彰副会長、副委員長に佐賀県医師会・池田秀夫会長が指名され、その後、会長諮問「地域包括ケアに向けた医師会共同利用施設の取り組み」についてフリートーキングを行った。

### 5) 医療関係者検討委員会〔8月31日(金)〕について(北野常任理事)

委員長に千葉県医師会・井上雄元会長、副委員長には愛知県医師会・市川朝洋理事が選出された。会長諮問は「チーム医療における医療関係職種との連携について」。諮問に関するフリートーキングの中で特定看護師などの問題が議論された。

### 6) 地域医療対策委員会〔9月5日(水)〕について(三宅副会長)

委員長に宮崎県医師会・富田雄二副会長、副委員長に秋田県医師会・坂本哲也副会長、富山県医師会・岩城勝英会長および小職が指名され、その後、地域医療対策関係の平成25年度概算要求要望について報告が行われた。引き続き、会長諮問「地域医師会を中心とした在宅医療の推進について～特に、病診連携の観点から～」に対するフリートーキングを行った。

### 7) 労災・自賠責委員会〔9月5日(水)〕について(深澤常任理事)

横倉会長から、委員長に大阪府医師会・茂松茂人副会長、副委員長に愛知県労災指定医協会・稲垣善幸会長が指名された。次いで、横倉会長から諮問「I 社会保障における労災保険指定医療機関の今後の役割」「II 交通事故診療における周辺問題について」が茂松委員長に手交された。引き続き、藤川常任理事から、最近の労災保険・自賠責保険等の動向として、平成24年労災診療費算定基準の改定、その他労災・自賠責に関する情報について説明・報告がなされた。最後に、今後の委員会の進め方について協議を行い、開催日程を確認した。

### 8) がん対策推進委員会〔9月6日(木)〕について(畑副会長)

委員長に秋田県医師会・坂本哲也副会長、

副委員長に小職が指名された。その後、がん対策推進基本計画の概要について報告があり、引き続き、会長諮問「わが国におけるがん対策の諸問題とその解決のための方策」に対するフリートーキングを行った。

#### 9) 医療安全対策委員会[9月7日(金)]について (水谷常任理事)

昨年に引き続き、各医師会においてテーマを決定して医療安全を推進し、目に見える形で実績報告をすることとなった。今回の委員会は、全国共同行動について東北大学・上原鳴夫教授を招き講演をいただいた。北海道には拠点の協力病院がないので協力いただける病院を探したいと考えている。

#### 10) 医療IT委員会[9月13日(木)]について

(伊藤常任理事)

地域医療連携について、松崎委員から「茨城県医師会医療・介護情報ハイウェイ構想」、牟田委員から「長崎地域医療連携ネットワークシステム(あじさいネット)」、また日医総研・上野主席研究員から全国の地域医療連携の現状に関する報告がそれぞれなされ、意見交換を行った。ついで、認証局と個人情報保護について、日医総研・矢野主任研究員から「日医認証局(HPKI)」について報告がなされ、三師会による認証局のあり方に関する勉強会の設置等に関して意見交換を行った。

#### 11) 医事法関係検討委員会[9月21日(金)]について (山光理事)

委員長に静岡県医師会・鈴木勝彦会長、副委員長には日本病院会・大井利夫顧問が選出された。会長諮問は「医療基本法(仮称)の制定に向けた医事法制の検討」であり、昨年度からの継続された項目について具体的に協議していく。本年12月22日には、医療基本法についてのシンポジウムを日医会館で開催されるので、都合のつく方は出席いただきたい。

#### 12) 産業保健委員会[9月28日(金)]について

(生駒常任理事)

本年9月に実施した地域産業保健事業に関するアンケート調査結果の報告(現行契約方式に関する問題等)、産業保健推進センター事業に関するアンケート調査結果の報告、10月11日(木)開催の第34回産業保健活動推進全国会議に提出された質問・要望事項について確認を行った後、会長諮問「地域産業保健センター事業、産業保健推進センター事業並びにメンタルヘルス対策支援センター事業の一括運営」に関してフリートーキングが行われた。

#### (3) その他

#### 1) 国民生活安全対策委員会[8月29日(水)]について (山下理事)

委員長に島根県医師会・加藤哲夫会長、副委員長には東海大学・小澤明教授が選出された。会長諮問は「国民の健康を守る医師会のあり方-国民生活での生命・健康に脅威となる事象の検証及びその対策」で、コンドロイチン等の特定健康食品についての成分分析や健康適正の疑義について報告検討が行われた。

#### 4. 承認事項

##### (1) 外部各委員会等委員の推薦について

(深澤常任理事)

北海道教育庁から依頼のあった「学校保健課題解決支援事業に係る連絡協議会」委員に岡部常任理事を、北海道労働局から依頼のあった「北海道産業保健・メンタルヘルス対策総合推進協議会」委員に長瀬会長と生駒常任理事を推薦することと決定。

#### 5. 協議事項

##### 第1号 平成24年度北海道医師会表彰に関する件

(深澤常任理事)

表彰規程にもとづく会員102名、役員・代議員3名、A会員の病院・診療所従業員285名、国公立等医療機関従業員119名、医師会職員13名の合計522名、並びに特別表彰3名を表彰選考委員会での選考結果にもとづき被表彰者と決定。

##### 第2号 理事提案事項

なし。

#### 6. 道総医協関連事項(三宅副会長)

平成24年8月18日開催の第3回理事会以降の会議について報告した。

#### 7. 閉会

## 第14回常任理事会

日時 平成24年10月9日(火) 18:30~19:45  
場所 北海道医師会館9階・理事会室  
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、北野・渡邊・三戸・目黒・藤井・深澤・橋本・前川・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒各常任理事、水元・中村・大口各監事  
(事務局:島影事務局長ほか12名)

#### 協議事項

##### 第1号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座49件、道医認定生涯教育講座52件、合計101件を承認することと決定。

##### 第2号 自民党道連団体政策懇談会の開催日程等に関する件(深澤常任理事)

10月22日(月)17時30分から開催される標記懇談会に提出する要望事項を10月17日(水)までに各部署で取りまとめることと決定。

#### 報告事項

## 1. 医業経営講習会[8月8日(水)・滝川市、9月27日(木)・上川北部]について(伊藤常任理事)

本年度は、滝川市医師会と上川北部医師会の2ヵ所で開催した。道医・中村顧問税理士が「医業経営の税制と遺産相続(特に税制)」と題して講演を行い、贈与税等に関し活発に質疑応答が行われた。参加者は、2会場併せて25名であった。

## 2. 北海道地域電力需給連絡会[9月27日(木)]について(長瀬会長)

高橋知事、北海道経済産業局・増山局長から挨拶の後、北電・川合社長から今夏の需給実績と今冬の需給見通しについて説明があった。構成団体の各業界から節電状況、今後の課題等について種々意見が出され、小職からは、人命に係わる問題であり医療機関のみならず在宅患者への配慮も含め綿密な対応を要望した。

## 3. 第92回北海道医学大会総会・平成24年度北海道医師会賞贈呈式[9月29日(土)]について

(渡邊常任理事)

吉田晃敏会頭(旭川医科大学長)のもと、203名の参加者を得て開催。北海道医師会賞・北海道知事賞受賞者は6名、各科トピックス4題の後、国立保健医療科学院の松谷有希雄院長より「ハンセン病の近代史から考える」をテーマに特別講演が行われた。

## 4. 第37回東北・北海道医師会共同利用施設連絡協議会[9月29日(土)~30日(日)、郡山市]について

(北野常任理事)

東北医師会連合会および当会の主催、福島県医師会担当で開催された。メインテーマは「高齢化社会の地域における看取りと医師会の役割ー共同利用施設の役割を中心にー」で、各道県から東日本大震災における共同利用施設の活動状況について報告の後、作家・柳田邦男氏の「変わる死の文化~看取りと『明日の生』~」の特別講演があり「看取りと医師会共同利用施設」のシンポジウムが行われた。施設見学は郡山医療介護病院であった。参加者は141名。次回は平成26年9月に岩手県医師会の担当により盛岡市で開催される。

## 5. 子育て支援フォーラムin北海道[9月29日(土)]について(岡部常任理事)

日本医師会と公益財団法人SBI子ども希望財団の主催により北海道医師会館において開催された。講師は国立成育医療研究センター・奥山真紀子こころの診療部長、北大産科生殖学分野・山田俊講師、榆の会こどもクリニック・石川丹院長、山梨県立大学人間福祉学・西澤哲教授の4名。参加人員は112名であり、悩める家族の問題や虐待の現状についての質問が寄せられ有意義な会であった。

## 6. 緊急臨時的医師派遣事業第2回推進協議会・第7回運営委員会[10月3日(水)]について

(宮本副会長)

推進協議会では、本年度の実績が前年度を大幅に

上回る見込みであることから、次年度に向けて事業のあり方を再検討し、派遣期間や謝金単価など実施基準の見直しを進めることとした。その後、引き続き運営委員会が開催され、派遣申請のあった新規4件と再申請55件の状況について条件を精査の上、57件の派遣を決定した。また、派遣元として42医療機関が登録された。

## 7. メンタルヘルス・セミナー[10月3日(水)、苫小牧市]について(岡部常任理事)

北海道の補助事業として本年度4地区で開催予定となっており、今回は第1回目の開催である。参加者は249名であり、議場からは種々質問があり、社会生活におけるメンタルヘルスの関心の高さが感じられた。うつ病患者の増加傾向に対し歯止めがかかるよう今後とも打開策を講じたいと考えている。

## 8. 第56回社会保険指導者講習会[10月4日(木)・5日(金)]について(橋本常任理事)

「実践 小児・思春期医療」をテーマに、日医と厚労省主催のもと日医会館大講堂で開催された。各講師からは、子どものアレルギー疾患、感染症、痙攣・意識障害、心臓病、さらには予防接種体制、子どもの性の問題とその対応など、小児から思春期まで多岐にわたる医療・諸問題等について説明がなされた。厚労省からは厚労省医政局・原局長より「日本の医療提供体制の現状と課題」と題し説明がなされ、現場を離れた女性医師の就労支援、子育て支援、更には医療クラークや看護職の活用で医師の負担軽減を図ることが必要であること、また機能分化については、リハビリテーションが重要であり、高機能病院に集約するなどの対応が求められていることを言及した。厚労省保険局医療課・宇都宮課長からは「地域包括ケアシステムと医療・介護の連携」と題し説明がなされ、地域包括ケアシステムでは患者が日常生活圏で適切な医療・介護のサービスを受けられる体制が必要であり、この実現のために今後の診療報酬改定を行うとの方針を示した。最後に日本医師会・中川副会長より、本講習会の総括として、厚労省からの前段の説明に触れ、国の方向性が間違っていれば率直に正していかなければならず、今後も国民皆保険を堅持していく旨の説明がなされた。

## 9. 全国医師会勤務医部会連絡協議会[10月6日(土)・松山市]について(藤井常任理事)

愛媛県医師会の担当で「新しい医療の姿 勤務医の明日」をメインテーマに開催された。午前は特別講演2題があり、日医・横倉義武会長からは「地域に寄りそう医療政策の実現に向けて」と題して、国民と共に歩む専門家集団としての医師会を目指し、世界に冠たる国民皆保険の堅持を主軸に国民の視点に立った多角的な事業を展開し、真に国民に求められる医療提供体制の実現に努力するとの講演があり、国立がん研究センター・嘉山理事長からは「勤務医の処遇改善における課題と解決策案」と題して、



医療崩壊が出現し、勤務医の処遇が問題化された。医師が時間を売る労働者になることから医療の委縮が始まる。人の生業はやりがいのある仕事が理想であり、それが幸せになることであると勤務医の処遇改善につき講演があった。続いて、日医勤務医委員会報告があり、さらに午後からは、シンポジウムが行われ、救急医療体制を維持するために当直明けでも翌日に通常勤務する過酷な労働環境や、医療機関と患者の対話を支援する医療メディエーターの取り組み、女性医師の勤務状況などについて愛媛県内の勤務医から発表があった。また、愛媛宣言（案）については、日医勤務医委員会に提案し採択することとなった。参加者は約360名。今回は、平成25年11月9日（土）岡山県において開催の予定である。

## 10. 各部報告

### (1) 第3回医療関連事業部担当理事会[9月25日(火)]について(藤井常任理事)

日本医師会から、厚生労働省が「看護師特定能力認証制度」創設の検討に関し、医行為分類（案）に対する意見を求めているので、当会からも意見提出を願いたいという依頼を受け開催した。当会としては、特定看護師には当初から反対という観点から、全ての医行為については現状のままで良いとする決定の下、意見書を提出した。

## 第15回常任理事会

**日時** 平成24年10月23日（火）18：00～19：56  
**場所** 北海道医師会館9階・理事会室  
**出席者** 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、北野・渡邊・三戸・目黒・深澤・直江・橋本・前川・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒各常任理事、水元・中村・大口各監事（事務局：島影事務局長ほか12名）

### 協議事項

#### 第1号 母体保護法医師指定に関する件

(深澤常任理事)

10月17日の審査委員会で指定「可」とされた新規2名、再審2名の申請者を指定医師とすることに決定。また、施設変更1件の申請を承認することと決定。なお、2年に一度の指定医更新については、申請者224名のうち更新「可」とされた223名を指定医師とすること、さらに指定医師の研修機関については指定要件を満たした41件を指定することと決定。

#### 第2号 北海道国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦に関する件(橋本常任理事)

現委員の任期が本年12月末日で満了となることから保険医代表40名の推薦依頼があった。内科、外科は関係郡市医師会、その他の専門科は各専門医会に推薦を依頼することと決定。

#### 第3号 北海道子ども未来づくり審議会委員の推薦に関する件(深澤常任理事)

藤井常任理事を推薦することと決定。

#### 第4号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座46件、道医認定生涯教育講座34件、合計80件を承認することと決定。

#### 第5号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件(生駒常任理事)

認定要件を満たした新規17名、更新183名の申請を承認。日医へ申請することと決定。

#### 第6号 日本医師会認定健康スポーツ医の認定申請に関する件(岡部常任理事)

認定要件を満たした更新20名の申請を承認。日医へ申請することと決定。

#### 第7号 第2回郡市医師会長協議会の議題に関する件(深澤常任理事)

11月11日（日）午前10時から北海道医師会館8階会議室で開催する標記会議の提出議題を決定。

#### 第8号 その他

(1) 11月行事予定に関する件(事務局)

### 報告事項

#### 1. 第13回介護保険推進全国サミットinひがしおうみ[10月4日(木)・5日(金)・滋賀県東近江市]について(前川常任理事)

「人と地域の絆の中で、地域包括ケアを～誰もが安心して看とられる顔の見える地域を創る～」をテーマに、琵琶湖東南に位置する東近江市で開催された。当サミットは介護保険制度が始まると同時に開催されており、高齢者の自立支援と尊厳の保持という基本理念のもとに制度の見直しや改正を要望してきた。冒頭、東近江市・西澤久夫市長より歓迎挨拶があり、公益財団法人さわやか福祉財団・堀田力理事長より地域包括ケアの問題点についての基調講演、厚生労働省・勝又浜子氏からは認知症施策推進5カ年計画（オレンジプラン）について解説が行われ、参加者は約900名であった。

#### 2. 第1回道民の健康づくり推進委員会地域・職域連携推進専門部会[10月10日(水)]について

(岡部常任理事)

委員長に小職、副委員長に全国健康保険協会北海道支部・松井清晴氏が選任された。第二次保健医療福祉圏域の地域・職域連携連絡会の取組状況と平成23年度健康づくり道民調査の結果報告が行われ、メンタルヘルス対策における職域保健の課題と地域保健との連携、メンタルヘルスに関する情報提供のあり方について協議された。

#### 3. 第34回産業保健活動推進全国会議[10月11日(木)・日医]について(畑副会長)

日医・横倉会長（代理・今村副会長）ら主催者4名の挨拶の後、午前は、兵庫産業保健推進センターからの推進センター事業の取組みと岡山県・千葉県か

らの地域産業保健事業の取組みに関する活動事例報告があった。午後は、厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課・椎葉茂樹課長より「労働衛生行政の現状と今後の方向性」と題して、また同部化学物質対策課・奈良篤課長より「有機塩素系洗浄剤のばく露防止対策について」と題してそれぞれ説明・報告があり、その後、日医・道永常任理事をはじめ5名の発言者により事前提出された質問・要望事項を中心に協議が行われた。

#### 4. 第14回日本医療マネジメント学会学術総会[10月12日(金)・13日(土)・佐世保市]について

(水谷常任理事)

佐世保市立総合病院・江口勝美院長が大会長となり、長崎県・中村法道知事からの歓迎挨拶の後、「地域医療の復興と絆～チーム医療と医療連携をさらに進めるヒューマンネットワーク作りを目指して～」をテーマに、一般演題1,116題、口演545題、ポスターセッション504題、クリティカルパス54題と今までにない多くの演題が寄せられた。特に医療安全の取組や総合診療医育成など地域特性を生かした発表が目立った。参加者は約2,000名であり、来年は岩手県盛岡市で開催される。

#### 5. 「医療の改善活動」全国大会 in 沖縄[10月12日(金)～13日(土)・宜野湾市]について (橋本常任理事)

社会医療法人敬愛会中頭病院・宮里善次病院長が大会長となり、開催された。各病院のTQMに関する部門別改善事例等115題の発表があった。本大会では審査基準に基づき、その改善目標や達成度・評価が優秀な内容について毎年表彰を行っているが、今年度は22演題が表彰を受けた。参加者は500名であった。来年は、平成25年11月9日(土)・10日(日)の両日、大阪市立大学において開催される。

#### 6. 電力需給対策に関する連絡会議[10月18日(木)]について (北野常任理事)

北海道電力から今冬の最大電力想定を563万kWとしており、予備電力は33万kW(予備率5.8%)を確保できる見通しとしているが、火力発電所が不測の停止で供給力が不足した場合のリスクを考慮する必要があることの報告があった。北海道からは国に対して高橋知事が今冬の電力需給に関する緊急要望を行ったこと、今夏の計画停電への対応状況について医療施設、福祉施設等にアンケートを実施することが報告された。小職からは国の方針が示され次第、今冬の電力確保対策に関して改めてアンケートを実施するよう要望した。

#### 7. 日医生涯教育協力講座セミナー「てんかんの診断から最新の治療まで」[10月20日(土)]について

(渡邊常任理事)

日本医師会、当会、グラクソ・スミスクライン(株)の3者による共催で開催。中村記念病院神経内科・溝渕雅広部長による「てんかん診療Up Date～一般医として知っておくべきPoint～」、北海道大

学病院小児科・白石秀明助教による「てんかん患者が抱える問題点～クレーン事故の事例から～」、以上2題の基調講演と札幌医科大学医学部脳神経外科学講座・三國信啓教授による特別講演「てんかんから学ぶNeuroscience」の後、一般医のためのてんかんお悩み解決として札幌医科大学医学部小児科学講座・二階堂弘輝助教と上善神経医院・伊藤ますみ院長を交えてパネルディスカッションが行われた。参加者は130名であった。

#### 8. 北海道医報通信員連絡協議会[10月20日(土)]について (山科常任理事)

まず、広報活動に関する講演会として、株式会社ツナグ・佐藤尚之代表を講師に迎え、「ソーシャルメディアをどう捉えるか」をテーマに、インターネットにおける情報伝達の基本知識について説明がなされた後、Twitter、FacebookをはじめとするSNSが、現在の社会において非常に優れた情報伝達ツールであることについて、氏の経験に基づいた事例等により解説がなされた。講演会終了後、引き続き連絡協議会を開催し、当会の広報の柱である北海道医報、インターネットのホームページならびに電子メールによる情報提供サービスについて、医報通信員に発言を求め、全員から要望等の意見を聴取した。

#### 9. 自民党道連団体政策懇談会[10月22日(月)]について (直江常任理事)

長瀬会長他当会役員7名が出席し、地域医療の確保と国民皆保険制度の堅持、入院料算定における管理栄養士の配置義務化の是正、社会保険診療報酬等に対する消費税の非課税制度の改善など、医療政策に関する19項目について、自民党道連会長・伊東衆議院議員、副会長・長谷川参議院議員ほか道議会議員に対して要望した。

#### 10. 日医理事会報告(長瀬会長)

協議等に関しては、すでに日医速報で報じられており、そちらを参照願いたい。なお、事前の打合せにて、専門医認定機構に対する日医の対応方針について、個別指導について、診療に関連した予期しない死亡の調査機関設立の骨子(日医案)について、「今こそ考えよう医療における消費税問題(第2版)」について、等の意見交換をした。

#### 11. 外部各委員会報告

##### (1) 北海道介護支援専門員協会第3回理事会[10月13日(土)]について (前川常任理事)

平成24年度日本介護支援専門協会北海道ブロック研修会(旭川開催)の報告が行われ、ケアマネージャーの会員数の増強対策、資質向上、研修プログラムの充実について協議された。小職からは、ケアマネジメント向上会議を通じた公開の場での評価・検証、他職種協議の実効性ある開催の徹底、ケアプランの評価・見直しに関する様式導入、実務研修受講の受験要件の見直し、研修指導者のガイドライン策定につい

て提言した。また一般社団法人・日本介護専門協会との三層構造および組織強化に向けて議論がなされた。

## 12. 中央情勢報告（直江常任理事）

自民党が日本再起のために掲げた政策の中に、保険給付の縮小が危惧される文言が含まれており、注意が必要であることを指摘した。また、同党の日本経済再生プラン、民主党のマニフェストに係る改革続行宣言、維新八策最終案、参議院自民党による民主党政権の検証について解説した。

## 13. 各部報告

### (1) 第3回会館中長期保全計画検討委員会[10月22日(月)]について（三戸常任理事）

今回は現在の北海道医師会館の建替および移転新築等を中心に3種類の事業計画（現地建替計画、別敷地新築計画、テナントビル移転計画）について詳細に協議した。次回委員会では第2

回、第3回委員会の事業計画および資金計画等を中心に今後の北海道医師会館のあり方を検討することとした。

## 道総医協関連事項

### 1. 第3回地域保健専門委員会[10月12日(金)]について（畑副会長）

平成24年度がん診療連携拠点病院要領に基づく事前調査の結果の報告があり、国への推薦候補となる20病院を内定した。また、すべての要件を満たすことのできないがん診療連携拠点病院に準ずる病院の指定の考え方が示され、今後検討していくこととなった。

### 2. 第2回地域医療専門委員会看護対策小委員会[10月22日(月)]について（北野常任理事）

北海道医療計画の見直しに対する看護職員関係素案（案）について協議した結果、文言の追加等若干の手直しをした上で素案とすることが確認された。

# お知らせ

## 第47回北海道ドクターズゴルフ大会 開催のお知らせ（予告）

標記大会を、恵庭市医師会の担当で下記のとおり開催することになりましたので、多くの会員にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

記

### 【前夜祭】

日 時：平成25年6月29日（土）  
18：00～20：00  
会 場：札幌パークホテル  
札幌市中央区南10条西3丁目  
TEL 011-511-3131

### 【大会】

日 時：平成25年6月30日（日）  
7：00スタート（予定）  
会 場：恵庭カントリー倶楽部  
恵庭市盤尻53-2  
TEL 0123-33-0001  
競技方法：18ホールズストロークプレイ  
（アンダーハンディ）  
A・B・Cクラス。各クラス  
設定は参加人数により、競技  
委員会で決定します。

参加資格：北海道医師会員で公式ハンディを有するもの。ただし、今回は特例としてハンディのない医師も参加できます。

参加申込：北海道医報3月号または4月号附録の「参加申込書」でお申込ください。

宿 泊：申込受付後、旅行会社からパンフレット等をお送りしますので、ご希望の方は、各自お申込ください。

問合せ先：〒060-8627  
札幌市中央区大通西6丁目  
北海道医師会 事業第五課  
TEL 011-231-1434  
FAX 011-252-3233  
E-mail 5ka@m.doui.jp